現代産業論b:第1回

担当教員　黒田敏史

本日の内容

- ガイダンス
  - 内容
    - ネットワーク産業の理論と現実
    - 取り扱う産業
    - 関連科目
    - この授業の目標
  - 授業計画
  - 評価方法
  - 前期期末レポート講評

内容

- ネットワーク産業の理論と現実
  - ネットワーク産業とは
    - 電力、通信などの物理的なネットワークを有する産業
    - 電子決済やゲーム機、インターネットポータルなどの抽象的なネットワークを有する産業

内容

- ネットワーク産業の特徴－１
  - 物理的なネットワークの存在による規模の経済
    - 物理的なネットワークを有する産業においては供給側の規模の経済、範囲の経済が存在するため、市場の失敗が生じ得る
    - そうした市場の失敗を是正するため、多くのネットワーク産業には政府による規制が行われている
    - 他方、政府の規制の弊害により、規制緩和・競争導入が行われた産業も多い
    - 政府の規制は企業行動を妨げとなることもあるが、規制を踏まえて事業戦略を立案することで、競争優位を得る事も出来る

内容

- ネットワーク産業の特徴－２
  - ネットワーク効果の存在
    - ネットワーク効果とは、ある財を利用する人が増えることで、その財を利用する他の人の効用も増加するような、消費に関わる正の外部性
    - ネットワーク効果を需要側の規模の経済と言い換えることも出来る
    - ネットワーク効果は必ずしも市場の失敗をもたらさないが、市場の失敗をもたらす可能性がある
    - ネットワーク効果は企業に戦略的行動の機会を与え、ネットワーク効果を活かすための様々な事業戦略が試みられている

内容

- 取り扱う産業
  - 前期
    - エネルギー産業（電力・ガス）
    - 電気通信産業（電話・ブロードバンド）
    - 音楽・映像配信（放送・パッケージ・著作権）
  - 後期
    - コンテンツビジネスと著作権
    - 多面的市場の経済分析
      - 携帯電話産業
      - ゲーム産業
      - ネットビジネス
      - 決済市場（電子マネー・クレジットカード）
    - 独占禁止法の経済分析
    - 現代厚生経済学

    等

内容

- 関連科目
  - 履修を前提とする科目
    - ミクロ経済学
    - 公共経済学
  - 同時履修が望ましい科目
    - 産業組織論
  - 補完的な科目
    - 計量経済学
    - 競争と法

内容

- 授業の目標
  - 安易な市場原理主義・政府万能主義からの脱出
  - 競争のルールを理解し、公正な方法で競争に勝つための戦略を考えられるようになる
  - 不公正な競争に対抗するための政府の役割を学ぶ

授業計画

- テキストは無し、参考書あり
  - 依田高典著『ネットワーク・エコノミクス』（日本評論社）
    - 絶版だが、著者のWebサイトで元になった経済セミナーの連載が公開されている （http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/~ida/ の教育活動→ネットワーク経済論、の参考資料）
  - 柳川隆、川濱昇編『競争の戦略と政策』（有斐閣）
  - より詳しく学びたい人は以下等が参考になる
    - 川濱昇他『ベーシック経済法』（有斐閣）
    - 小田切宏之『競争政策論』（日本評論社）
    - 依田高典他編『情報通信の政策分析～ブロードバンド・メディア・コンテンツ～』（NTT出版）
    - 丸山雅洋『経営の経済学』（有斐閣） ＊進学希望者向け
    - 後藤晃・鈴村興太郎編『日本の競争政策』（東京大学出版会）
    - 岡田羊祐・林秀哉『独占禁止法の経済学』（東京大学出版会）

授業計画

- 資料資料はパワーポイントで作成
- ポータル、及びWebサイト（http://www.tku.ac.jp/~kuroda/index.html）で公開
- １２月頭に中間レポート
  - 多面的市場についてレポートしてもらいます
  - 〆切は１２月末
- オフィスアワー
  - 月曜１３：００－１４：３０、第二研究センター２２０１
  - 要予約としていますが、予約無しでも受け付けます（ただし、予約がない場合は居ないかもしれません）
  - 予約は　kuroda@tku.ac.jp　まで連絡を

評価方法

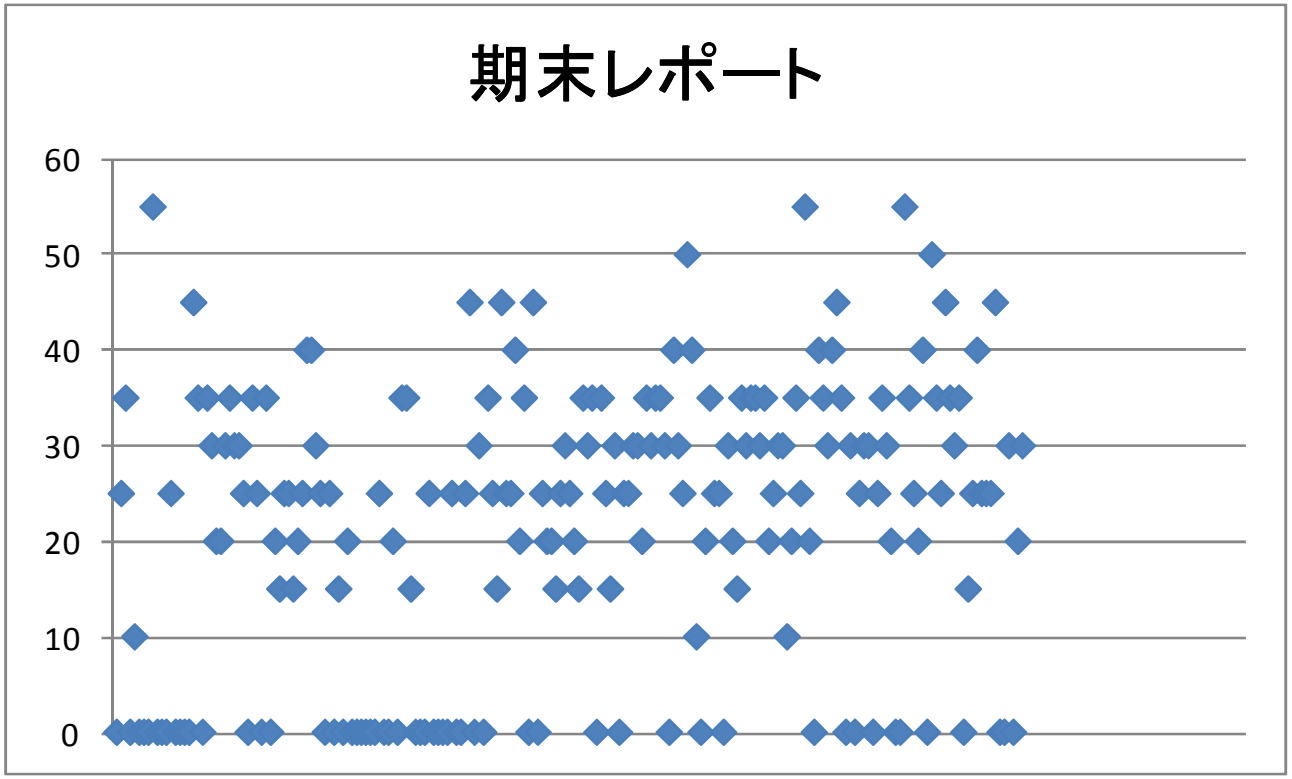
- 中間レポート（40%）＋期末レポート（60%）
  - レポートは、評価基準を事前に提示
  - よく書けているレポートであったとしても、評価基準を満たしていない場合は低評価となるので要注意
  - 出席はとらない

前期期末レポート講評

- レポート課題
  - エネルギー・通信のいずれかの産業に期待される今後の役割と、それを実現するための企業戦略や政府の役割について論ぜよ
- 評価基準
  - 期待される役割の設定が妥当であるか
  - 行動を担う主体とそのインセンティブが明示されているか

前期期末レポート講評

- 提出者数144名、平均点29．16点、範囲10－55点



前期期末レポート講評

- 問題設定（目標・課題）を明確にしていないレポートが多かったです
  - 問題設定が出来ていなければ問題を解決するための方策や、主体のインセンティブについて論ずることは出来ません
- レポートでは政府の政策や企業の戦略を紹介することを求めているわけではありません。自ら設定した問題に対して、政府や企業、消費者がどの様な役割を果たしうるのかについて論ずるのがレポートの評価基準です。従って、生産者としての企業、市場の失敗の矯正者としての政府、需要によって企業に利益を与える消費者、そしてそれを繋ぐ市場機構や法制度についての説明が無いレポートは高評価とはなり得ません。
- 企業が利潤最大化以外の行動原理をとる事や、消費者が効用最大化以外の行動原理をとる事、政府が社会効用最大化以外の行動原理をとる事を否定しているわけではありません。しかし、それ以外の行動原理を想定しているのでれば、何故そのような行動原理がとられるのかの説明が必要です。
- 歴史についての記述を求めているわけではないので、あまり古い参考文献を用いても役に立ちません。特に情報通信に関しては、10年前に書かれた文献が現代の課題に役立つことは希です。

次週の内容

- コンテンツビジネスと著作権
  - なお、次回は授業公開日となっているため、一般の方も講義に参加する可能性があります